

K120.1

11.1a

修第十五号
共壹册

宋松謙澄著
勅諭修身經詳解

全

不認定等

K120.1
11.1a

文學博士 末松謙澄著

教諭自經集
全

精華舍藏版

卯 辛 治 明

忠





忠孝二大字略歷

是レ蘇州ノ勤王家唐崎常陸介カ其郷賀茂郡竹原五十宮八幡社境内千引巖ニ
鑄スル所ノ宋ノ忠臣文天祥忠孝二大字ノ摹刻ナリ常陸介高山彦九郎ト友ト
シ善シ管テ俱ニ海内ヲ歴遊ス彦九郎ノ久留米ニ死スルヤ常陸介悉ク之レト
往復ノ文書ヲ焚キ竹原ノ不老山庚申堂ニ上リ屠腹シテ死ス始メ常陸介ノ會
祖某山崎開齋ニ學フ開齋嘗テ天祥ノ忠孝二大字ヲ某侯ノ所ニ觀テ之ヲ摹寫
シ後チ之ヲ某ニ與フ傳テ常陸介ニ至ル常陸介其逸亡ヲ恐レ之ヲ千引巖ニ鑄
ス常陸介ノ彦九郎ト豐前ニ遊フヤ小倉藩儒石川彦岳先生爲メニ二大字記ヲ
作ル去歲子ノ豐前ニ歸ルヤ始メテ常陸介來遊ノ事歴ヲ聞キ今茲竹原ニ至リ
更ニ其逸事ヲ詳ニス頃者二大字ノ摺本ヲ得タルヲ以テ敢テ之ヲ天覽ニ供シ
又之ヲ縮寫シテ以テ此書ノ首ニ弁ス亦竊ニ世ノ後進子弟ヲシテ慨然興起ス
ル所アラシムルヲ期スルナリ原鑄上下ニ書ス今之ヲ左右ニ分チ以テ裝釘ニ
便ニス左ニ彦岳先生記中ノ一節ヲ抄ス

夫人倫大本、莫先乎此二字、百行之源、萬善所生、真在乎是也、世之
人、自幼至老、孰不朝夕口之筆之、人君人父以此責臣子、宿儒者學
以此訓後生、極論切論、諄々不已、亦唯是二字、然徒言之而不能踐
者、天下皆是也、吾人豈不惕然愧懼乎

青萍迂人謙澄識

第三版緒言

一此書ハ予ガ竊ニ明治二十三年ノ教育勅語ニ就キ之ニ附スルニ私解ヲ以テシタルモノナリ題スルニ勅諭修身經ノ稱ヲ以テスルハ二十三年ノ教育勅語ハ實ニ我天皇陛下ガ吾人臣民ノ爲メ忠孝友和信ノ要義ヲ示シ恭儉博愛修學義勇ノ諸行ヲ序シ以テ修身ノ大經ヲ垂レ玉ヒタルモノナルヲ以テナリ

一勅語全體ノ語勢文意ヲ仰察シ兼テ吾人臣民ノ本分ヲ考フルニ勅語中父母ニ孝ニノ上當ニ忠ニ關スル一語アルベシ其之レ無キハ蓋シ陛下躬君位ニ在ルヲ以テ故サラニ謙シテ之ヲ明言シ玉ハザルニ似タリ明言セズシテ而シテ後チ益々陛下ノ聖德ヲ見ル吾人ハ固ヨリ當ニ言外ニ於テ深ク其意ヲ服膺スベキナリ是故ニ敢テ皇室ニ忠ニノ一句ヲ以テ挿註ト爲シ仍之ニ附スルニ私解ヲ以テス

一此書ノ外予別ニ勅諭修身經階梯ノ著アリ以テ初學ニ便ニス

末松謙澄謹識

勅諭修身經詳解

末松謙澄著

我力皇祖皇宗

案ズルニ皇祖トハ我皇室ノ始祖ヲ謂ヒ皇宗トハ歷代ノ聖天子ヲ謂フナリ

國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコ

第三版緒言

一此書ハ予ガ竊ニ明治二十三年ノ教育勅語ニ就キ之ニ附スルニ私解ヲ以テシタルモノナリ題スルニ勅諭修身經ノ稱ヲ以テスルハ二十三年ノ教育勅語ハ實ニ我天皇陛下ガ吾人臣民ノ爲メ忠孝友和信ノ要義ヲ示シ恭儉博愛修學義勇ノ諸行ヲ序シ以テ修身ノ大經ヲ垂レ玉ヒタルモノナルヲ以テナリ

一勅語全體ノ語勢文意ヲ仰察シ兼テ吾人臣民ノ本分ヲ考フルニ勅語中父母ニ孝ニ上當ニ忠ニ關スル一語アルベシ其之レ無キハ蓋シ陛下躬君位ニ在ルヲ以テ故サラニ謙シテ之ヲ明言シ玉ハザルニ似タリ明言セズシテ而シテ後チ益々陛下ノ聖徳ヲ見ル吾人ハ固ヨリ當ニ言外ニ於テ深ク其意ヲ服膺スベキナリ是故ニ敢テ皇室ニ忠ニ一句ヲ以テ挿註ト爲シ仍之ニ附スルニ私解ヲ以テス

一此書ノ外予別ニ勅諭修身經階梯ノ著アリ以テ初學ニ便ニス

末松謙澄謹識

勅諭修身經詳解

末松謙澄著

朕惟フニ我カ皇祖皇宗

謹デ案ズルニ皇祖トハ我皇室ノ始祖ヲ謂ヒ皇宗トハ歷代ノ聖天子ヲ謂フナリ

國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコ

ト深厚ナリ

謹デ案ズルニ肇ハ始ナリ國ヲ肇ム
ルトハ始メテ國ヲ建ルヲ謂フ即チ
我日本帝國ヲ創設シタルヲ謂フナ
リ宏遠ハ廣大悠遠ノ意ニシテ其規
摸ノ狹隘卑近ナラザルヲ謂フ徳ヲ
樹ツルトハ樹ハ植ナリ徳政ヲ敷キ
徳教ヲ垂レ民心ニ浸染シテ固着ス

ル所アルヲ謂フ深厚トハ其根抵ノ
深ク且ツ厚ウシテ確乎拔クベカラ
ザルヲ謂フナリ蓋シ日本ノ國タル
ヤ久シ太古ノ時ニ方リ天照皇大神
始メテ皇孫瓊々杵尊ヲ降シテ此土
ニ君臨セシメ以テ我帝國ノ基礎ヲ
開ク降テ神武天皇ニ及ビ遂ニ海内
ヲ統一シ以テ大ニ我帝國ヲ建ツ神

武天皇ヨリ今ニ至ルマデ時ヲ經ル
コト既ニ二千五百有餘年而シテ國
ハ則チ長ク東海ニ屹立シテ未ダ嘗
テ外國ノ侮ヲ受ケズ皇室ハ則チ皇
統連綿トシテ長ク一系ノ帝祚ヲ踐
ミ國ト合シテ一體ト爲リ君民相結
托シテ以テ今日ノ盛ヲ致セリ皇室
祖先ノ國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ

樹ツルコト深厚ナルニアラズンバ
焉ンゾ得テ如此ナランヤ故ニ國ヲ
肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト
深厚ト謂フ

我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ

謹デ案ズルニ我ガ臣民トハ廣ク我
帝國人民ヲ指ス此處ハ首トシテ吾
人世々ノ祖先ヲ指シテ云フナリ我

日本帝國ハ古來我皇室歷代ノ天皇ノ君臨シ玉フ所ニシテ之ガ人民タル者ハ男ト無ク女ト無ク老ト無ク幼ト無ク孰レカ天皇ニ臣屬セザル者アラン故ニ臣民ト謂フ忠トハ能ク君ニ事フルナリ孝トハ能ク父母ニ事フルナリ是レ吾人ノ祖先ガ能ク忠孝ノ行アリシヲ歎美シ玉フナ

リ蓋シ本邦古來忠臣孝子實ニ其人ニ乏シカラズ忠ニ在テハ楠正成行父子ヲ始メトシ新田名和菊池諸氏ノ一族其他藤原鎌足和氣清磨菅原道眞ノ類枚舉ニ遑アラズ孝子ニ至テハ特ニ然リトス古來孝子傳ノ類ノ堆積山ヲ爲スニ至レルモ亦以テ之ヲ見ルベキナリ

億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セ
ルハ

謹デ案ズルニ億兆トハ即チ我帝國
人民ヲ指ス蓋シ數ニ因テ謂フノ辭
ナリ心ヲ一ニシトハ能ク忠孝ノ大
道ヲ重ンジ衆心皆茲ニ歸一シ敢テ
枝梧抵觸スル所ナキヲ謂フ厥ノ美
ヲ濟ストハ猶美行ヲ全ウスト謂フ

如シ忠孝ノ行ハ人事ノ最モ美ナル
モノナリ能ク忠孝ノ實ヲ舉グ故ニ
厥ノ美ヲ濟スト謂フナリ蓋シ我帝
國人民ガ祖先以來常ニ忠孝ヲ以テ
身ヲ修メ世ニ處スルノ大法ト爲シ
衆心皆一ニ茲ニ歸シ以テ世々相傳
ヘテ能ク我國ノ美風ヲ成セルヲ謂
フナリ

此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス

謹デ案ズルニ國體トハ猶國ノ特質ト謂フ如シ人各體アリ而シテ人々各特殊ノ狀貌ヲ備フ國モ亦此ノ如シ各國自ラ特殊ノ氣風體面ヲ備フ之ヲ國體ト謂フ精華トハ物ノ凝結シテ純粹ニ且ツ秀美ナル所ニシテ

猶最上ノ美所ト謂フ如シ淵源トハ俱ニ水ノ流出スル所ニシテ猶根元ト謂フ如シ蓋シ上文ニ記スル所ハ實ニ我日本ノ日本タル所以ノ最上ノ美所ニシテ而シテ教育ノ本旨モ亦忠孝ノ美行ヲ教フルニ外ナラザルヲ以テ我日本ノ教育ハ實ニ其根元ヲ此ニ發セルヲ謂フナリ

爾臣民

謹デ案ズルニ爾臣民トハ陛下親シク我帝國人民ヲ呼ンデ勅諭シ玉フナリ

皇室ニ忠ニ

是レ勅語ノ文ニアラズ然レ凡意味ハ則チ自ラ言外ニ含蓄セリ故ニ敢テ之ヲ挿註ト爲シ以テ正文

ノ衍義ニ充ツ

謹デ案ズルニ我日本帝國ハ古來我皇室ト與ニ興リ與ニ進ミ以テ數千年ノ久キニ渉ル我帝國人民ハ祖先以來一モ皇室ノ恩澤ニ浴セザル者アルコト無シ加之我帝國ノ帝國タル所以ハ實ニ皇室能ク國ノ休戚ヲ以テ其休戚ト爲シ

國ノ隆替ヲ以テ其隆替ト爲シ常
 ニ國ト相離レズ以テ長ク其尊榮
 ヲ保チ萬國ニ冠絶スルニ在リ皇
 室ノ尊榮ニシテ苟モ一點ノ汚瀆
 ヲ受ケンカ我帝國亦其帝國タル
 所以ヲ失ハントス故ニ吾人ハ念
 ヲ皇室ノ尊榮ヲ忘レズ能ク皇室
 ヲ奉戴シ一ハ以テ聊カ祖先以來

ノ鴻恩ニ酬イ一ハ以テ益其光輝
 ヲ中外ニ發揚センコトヲ務ムベ
 キナリ

父母ニ孝ニ

謹デ案ズルニ吾人父母アリテ而シ
 テ後チ我身アリ身體髮膚皆之ヲ父
 母ニ受ク父母ノ我ヲ生ミ我ヲ育ス
 ルヤ其劬勞實ニ言フベカラザルモ

ノアリ父母ノ恩ハ海ヨリモ深ク山ヨリモ高シ詩ニ曰ク欲報之德旻天罔極ト父母ノ恩ノ報イ易カラザルヲ謂フナリ其レ然リ孜々汲々トシテ善ク父母ニ事フルハ誠ニ子タル者ノ本分トス意フニ敢テ身體髮膚ヲ毀傷セザルハ孝ノ始メニシテ身ヲ立テ道ヲ行ヒ名ヲ後世ニ揚ゲ以

テ父母ヲ顯ハスハ孝ノ終リナリ吾人ハ常ニ拮据黽勉シテ以テ其始終ヲ全ウスルコトヲ務ムベキナリ但人ノ才智境遇必ズシモ同ジカラズ徒ニ立身功名ニ熱中シ以テ分外ノ志望ヲ達セントスルトキハ反テ孝ノ本旨ニ違フコトアリ是レ思ハザルベカラス

兄弟ニ友ニ

兄弟トハ吾ト
父母ヲ同ウシ
ヲ生ル、者ヲ
謂フ姉妹モ含
ムト知ルベシ

謹デ案ズルニ友トハ兄弟相親愛ス
ルヲ謂フ兄弟ハ吾ト同ク父母ノ骨
肉ヲ分チタル者ニシテ其親ノ我ト
相近キコト父母ノ次ニ在リ宜ク相
親愛シテ相助ケ相救フベキナリ詩
ニ曰ク凡今之人莫如兄弟ト人ノ相
親ミ相助クルハ兄弟ニ如クモノ無

キヲ謂フナリ互ニ父母ノ音容ヲ拜
スルノ想ヲ爲シ樂ンデ相助ケ相救
ヒ以テ彼我ノ幸福ヲ進ムルモノ孰
レカ兄弟ニ如クモノアランヤ父母
既ニ亡スルニ及ンデハ特ニ然リト
爲ス兄弟ニシテ苟モ友ナラザラン
カ遂ニ身ヲ損シ父母ヲ辱シメント
ス故ニ兄弟ハ互ニ相友ナラザルベ

カラザルナリ

夫婦相和シ

謹デ案ズルニ和ハ和合ナリ互ニ相調和シテ苦樂ヲ共ニシ悖戾反目スルコトナキヲ謂フナリ夫レ夫婦アリテ而シテ後チ家アリ夫婦相和セザレバ何ヲ以テカ一家ノ幸福ヲ全ウスルコトヲ得ン古語ニ夫婦ハ一

體ナリトモ曰ヘリ夫婦ハ相和セザルベカラザルナリ

朋友相信シ

謹デ案ズルニ相信ズトハ相交ルニ信ヲ以テスルナリ信トハ行ヒ其言ノ如クシ相欺キ相陥ル等ノコト無ク艱難相救フヲ謂フナリ夫レ人固ヨリ孤立スベカラズ必ラズヤ朋友

アリテ而シテ後チ世ニ立ツベシ蓋
シ朋友アリテ事ヲ共ニシ業ヲ同ウ
シ互ニ獎勵裨益スルニアラザレバ
人皆勇往ノ氣ヲ損シ有爲ノ機ヲ失
ヒ頑陋ニ陥テ已マントス而ルニ朋
友ハ本、骨肉ノ親アルニアラズ意氣
相合シテ成ルモノナリ信ナラズン
バ何ヲ以テカ其交ヲ全ウスルコト

ヲ得ン故ニ朋友ハ相信ゼザルベカ
ラザルナリ

恭儉己レヲ持シ

謹デ案ズルニ恭ハ莊敬ナリ儉ハ儉
束ナリ恭儉トハ驕慢倨傲ノ風ナク
且ツ善ク我行爲ヲ儉束シテ放縱粗
暴ニ流レシメザル謂ヒニシテ節用
ノ意亦自ラ其中ニ包含セリ恭儉己

レヲ持ストハ吾人ノ一身ヲ處スル
ヤ當ニ恭儉ヲ以テ旨トスベキヲ謂
フナリ夫レ己レ驕慢倨傲放縱粗暴
ナレバ亦必ラズ人ノ嫌忌侮慢ヲ受
ケ遂ニ其身ヲ亡スニ至ル所謂人必
自侮然後人侮之是レナリ故ニ吾人
ノ己レヲ持スルハ宜ク恭儉ヲ以テ
旨トスベキナリ

博愛衆ニ及ホシ

謹デ案ズルニ博愛トハ愛ノ偏曲狹
隘ナラザルヲ謂フ衆ニ及ボストハ
此心ヲ推シテ能ク衆人ニ及ボスト
謂フナリ夫レ吾人相集ツテ之ヲ小
ニシテハ家ヲ爲シ郷ヲ爲シ之ヲ大
ニシテハ國ヲ爲シ世界ヲ爲ス互ニ
汎ク相愛シテ其幸福ヲ進ムル心ナ

クンバ禽獸ト何ゾ擇バン蓋シ我自
 ラ人ヲ愛スルハ即チ人ヲシテ亦我
 チ愛セシムルノ道ナリ所謂愛人者
 人恒愛之是レナリ故ニ吾人ハ常ニ
 博愛衆ニ及ボスコトヲ務ムベキナ
 リ但愛ニハ自ラ差等ナキコト能ハ
 ズ故ニ實際ノ應用ニ至テハ能ク前
 後緩急ノ別ヲ察シテ其宜ヲ制スベ

學ヲ修メ業ヲ習ヒ

シ近親ヲ棄テ他人ヲ愛シ本國ニ背
 テ外國ヲ愛スル如キハ愛ノ本旨ニ
 アラザルナリ是レ思ハザルベカラ
 ズ
 謹デ案ズルニ學ヲ修ムルトハ學問
 チ勉メテ我見聞ヲ博クスルヲ謂ヒ
 業ヲ習フトハ學ブ所ノ藝術ヲ反復

學ト業トハ大
 差違ナシ學ハ
 首トシテ文書
 ニ就テ謂ヒ業
 ハ首トシテ事
 物ニ就テ謂フ

鍊磨スルヲ謂フ蓋シ忠、孝、友、和、信、恭、
 儉、博愛ハ皆吾人ノ善行ニシテ一日
 モ忽ニスベカラズト雖凡若シ之ニ
 加フルニ學問藝術ヲ以テセザレバ
 世ノ實用ニ適シ難シ且ツ事理ニ通
 曉セザルガ爲メ其所謂善行モ或ハ
 完全ヲ闕クコト無シト保スベカラ
 ズ夫レ人ノ人タル所以ハ徒ニ故態

ヲ株守スベカラズ必ズヤ學問藝術
 ヲ修メ事理ニ通ジ事業ニ慣レ以テ
 世ノ實用ニ適スルコトヲ期セザル
 ベカラズ故ニ學ヲ修メ業ヲ習フコ
 トヲ要スルナリ

以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ

謹デ案ズルニ是レ學ヲ修メ業ヲ習
 フノ目的ヲ示スナリ吾人宜ク學ヲ

能ハ能力ニ同
 シ事ニ堪フル
 ノ伎倆ヲ具フ
 ルヲ謂フ智能
 (一)インテレ

クチアルハ、フ
アクルチー）
トハ才智上ノ
能力ト云フノ
意ナリ啓發ハ
誘導シテ發達
セシムルノ意
ナリ器ハ猶材
ト云フガ如シ
用ニ堪フル資
格ヲ具フルヲ
謂フ德器（一
グォルチニア
ス、ベルソナ
リチー）トハ
猶有德ノ人物
ト云フガ如シ
成就ハ涵養シ
テ完全ナラシ
ムルノ意ナリ

修メ業ヲ習フノ功ニ因リ才智ノ能
力ヲ發達シ有德ノ材器ヲ完成スベ
キヲ謂フナリ學問藝術ハ徒ニ無用
ノ事ヲ知り若クハ惡事ニ堪フル材
器ヲ養フ爲メナラズ必ラズヤ智力
ヲ磨キ德行ヲ養フヲ以テ目的トセ
ザルベカラズ故ニ智能ヲ啓發シ德
器ヲ成就シト謂フナリ

吉田了以ガ淡
河ノ方法ヲ工
夫シテ能ク舟
行ノ便ヲ開キ
伊能忠敬ガ沿
海ノ測量ヲ遂
グテ航海ノ進
歩ヲ致セル如
キハ所謂世務
ヲ開クナリ世
務ヲ開クト公
益ヲ廣ムルト
ハ自ラ差違ア
リト雖凡一事
ニシテ兩者ヲ
兼ヌルモノ多

進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ

謹デ案ズルニ是レ學ヲ修メ業ヲ習
フ者ハ獨リ智能ヲ啓發シ德器ヲ成
就スルニ止マラズ猶進デ爲ス所ア
ルベキヲ示スナリ公益ヲ廣ムルト
ハ廣ク公衆ヲ利スベキノ事業ヲ爲
スヲ謂ヒ世務ヲ開クトハ世ノ業務
ノ何タルヲ問ハズ之ヲシテ發達進

シト知ルベシ

歩スル所アラシムルヲ謂フナリ良
 書ヲ著ハシ良發明ヲ爲シ若クハ有
 用ノ工事ヲ興シテ多ク世人ヲ益ス
 ル類ヲ公益ヲ廣ムト謂ヒ事物ノ改
 善方法ヲ案出シテ其事業ノ擴張ヲ
 致ス類ヲ世務ヲ開クト謂フナリ蓋
 シ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就スルモ
 獨リ之ヲ一身ニ藏シ用ニ施ス所ナ

クンバ初メヨリ學ヲ修メ業ヲ習ハ
 ザルト何ゾ別タン人ノ此世ニ生ル
 、ヤ人々若シ徒ニ一身ノ安樂ニ姑
 息シ公益ト世務トノ如何ヲ思ハズ
 ンバ豈文明ノ進歩ヲ見ルコトヲ得
 ンヤ故ニ公益ヲ廣メ世務ヲ開クコ
 トヲ要スルナリ

常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ

謹デ案ズルニ國憲トハ一國ヲ組織
スル大典章ヲ謂フ國憲ハ政體ヲ確
立シ君民上下ノ關係ヲ明白ニシ吾
人ガ享有スル權利ノ綱領ヲ示スト
同時ニ又其服従スベキ義務ノ要目
ヲ示スモノニシテ我天皇陛下ガ明
治二十二年二月十一日ヲ以テ欽定
シ玉ヒタル帝國憲法ハ即チ國憲ノ

最モ著ルシキモノナリ夫レ國ニ憲
法アルハ猶體ニ骨アル如シ骨ナケ
レバ體其體ヲ爲サズ憲法ナケレバ
國其國ヲ爲シ長ク隆盛ヲ保ツコト
能ハザルナリ而シテ吾人ハ我國家
ノ下ニ生息シ之レト休戚ヲ共ニス
ル者ニシテ國家ノ盛衰ハ實ニ吾人
ノ幸不幸ト相伴フ故ニ吾人ハ常ニ

國憲ヲ尊重シ之ヲシテ一點ノ障害
ヲ受ケシメザルコトヲ務メザルベ
カラザルナリ國法トハ政權ノ作用
ニ因リ國民ノ行爲ヲ節制スル所ノ
準繩即チ諸種ノ法律ヲ謂フナリ吾
人ガ天皇陛下ニ隸屬シ相集リテ一
國ヲ爲ス上ニ於テ吾人各自ノ交渉
ヨリ乃チ官民ノ關係ニ至ルマデ其

權利義務ノ在ル所ヲ示シ以テ準據
スル所アラシメ吾人ヲシテ常ニ生
命財産ノ安全ヲ保タシムルモノハ
一モ法律ノ力ニ依ラザル無シ我レ
若シ法律ノ制裁ヲ顧ミズ他人ニ對
シ私慾ヲ逞ウシ私力ヲ縱ニセンカ
他人亦我ニ對シテ其私慾ヲ逞ウシ
私力ヲ縱ニシ互ニ相吞噬シテ後チ

已マントス果シテ如此ナレバ國家ノ秩序何ヲ以テカ立ツコトヲ得ン秩序一タビ亂ルレバ國其國タル所以ヲ失ハントス譬ヘバ叨リニ其家ノ柱壁ヲ毀損スル者ハ遂ニ自ラ其家ヲ崩壞スルニ至ル如シ故ニ國法ハ常ニ之ヲ遵奉セザルベカラザルナリ

又謹デ案ズルニ國憲ト國法トハ固ヨリ大差アルコト無シ其異ナル所ハ國憲ハ綱領ヲ舉ゲ國法ハ條目ニ涉ルニ在リ之ヲ人身ニ譬フレバ國憲既ニ骨ノ如シトスレバ國法ハ猶筋ノ如シト云ハンノミ國憲ノ尊重迥ニ國法ノ上ニ在リテ最モ之ヲ尊重セザルベカラザルコト勿論ナリ

ト雖凡國法亦決シテ之ヲ蔑如スベ
カラズ是レ國憲ヲ重ズルト同時ニ
又國法ニ遵フベキ所以ナリ

一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ

謹デ案ズルニ一旦緩急アルトハ國
ニ事變アルノ時ヲ謂フナリ義勇ト
ハ正義ニ中ル勇氣ナリ若シ勇ニシ
テ正義ニ中ラズンバ暴虎馮河ノ勇

ノミ貴ブニ足ラザルナリ故ニ義勇
ト謂フ公ニ奉ズルトハ國家ニ盡ス
ノ意ニシテ國家公共ノ危難ニ臨ン
デ粉骨齏身ノ勞ヲ厭ハザルヲ謂フ
ナリ是ヲ義勇ノ大ナルモノトス蓋
シ吾人ハ常ニ我國家ト利害ヲ共ニ
ス國家ノ危難ハ即チ吾人ノ危難ナ
リ故ニ一旦國家ノ事變ニ遭ヘバ各

其義勇ヲ奮ヒ錦旗ノ向フ所ニ從ヒ
大ニ盡ス所ナカルベカラズ此氣象
ヲ平日ニ涵養スルヲ愛國ノ精神ト
謂フ吾人苟モ國民タル以上ハ一日
モ愛國ノ精神ナカル可ラズ但實際
ノ應用ニ至テハ自ラ順序方法アリ
未ダ徵發ヲ受ケザルニ叨リニ自ラ
敵中ニ闖入セントスル如キ或ハ未

ダ宣戰ノ布告ヲ見ザルニ漫ニ他國
人ヲ認メテ仇敵ト爲ス如キハ兇ノ
ミ暴ノミ何ゾ其義勇タルニ在ンヤ
故ニ義勇公ニ奉ズル者ハ亦自ラ事
ニ臨ミ時ニ應ジ順序方法ノ宜キヲ
制スベキナリ是レ思ハザルベカラ
ズ

以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ

謹デ案ズルニ我皇室ハ開闢以來天
ノ明命ニ據リ萬世一系以テ我帝國
ニ君臨セリ其運素ヨリ天壤ト窮リ
無シ昔ハ天照皇大神ノ皇孫瓊々杵
尊ヲシテ此土ニ降臨セシムルヤ豐
葦原ノ瑞穗國ハ我子孫王タルベキ
ノ地ナリ爾宜ク就テ治ムベシ寶祚
ノ隆當ニ天壤ト與ニ窮リ無カルベ

シト勅宣シ玉ヘリト云フヲ以テモ
之ヲ見ルベシ然リト雖モ皇運亦時
ニ盛衰ナキコトヲ保スベカラズ苟
モ皇運ノ隆盛ヲ維持シ益其光輝ヲ
中外ニ耀サント欲セバ人力亦之ヲ
盡サルベカラズ扶翼ハ猶守護警
衛ト云フ如シ竊ニ聖意ノ在ル所ヲ
察スルニ皇運ノ隆盛ハ天子自ラ宵

衣旰食精ヲ勵シ治ヲ圖リ以テ之ヲ維持スベキハ論ナシト雖モ吾人人民モ亦宜シク天子ヲ助ケ之ヲ守護警衛スベシト謂フニ在ル如シ而シテ其之ヲ守護警衛スルノ法ハ上ニ謂フ所ノ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ズト云フニ外ナラズ是レ陛下ガ以テ云々ト

勅諭シ玉フ所以ナリ夫レ吾人犬馬ノ勞ニシテ陛下以テ皇運ヲ守護警衛スルニ足ルト爲シ玉ヘリ吾人誰カ恐悚感激シテ聖恩ノ涓滴ヲ酬ユルコトヲ務メザルベケンヤ
是ノ如キハ獨リ朕力忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

謹デ案スルニ是ノ如キトハ上文ニ
勅諭シ玉フ所ヲ總括シテ言フ祖先
ノ遺風ヲ顯彰スルトハ祖先既ニ此
美風アリ吾人之ヲ繼承シテ之ヲシ
テ益世ニ煥發セシムルヲ謂フ吾人
若シ上文ニ勅諭シ玉フ所ヲ以テ我
言行ノ標準トナサンカ則チ吾人ハ
天皇陛下ニ對シテ誠忠善良ノ臣民

タルコトヲ得ルハ論ナシト雖モ唯
此ニ止マラズ又善ク祖先ノ遺風ヲ
顯彰スルニ足ルヲ謂フナリ顧フニ
忠孝友和信以下ノ諸行ハ吾人祖先
ノ常ニ實行ヲ怠ラザル所ニシテ世
々相承ケテ以テ我帝國臣民ノ美風
ヲ爲セリ吾人ハ宜ク之ヲ繼承シテ
此風ヲシテ益中外ニ發揚セシムベ

キナリ

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニ
シテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所

謹デ案ズルニ斯ノ道トハ上文ニ記
スル所ノ修身ノ教ヲ謂フ子孫臣民
トハ皇祖皇宗ノ子孫タル者及其臣
民タル者ト謂フノ意ニシテ即チ上
皇室ヨリ下、吾人人民ニ至ルマデヲ

包括シテ廣ク指ス蓋シ上文ニ記ス
ル所ノ修身ノ教ハ實ニ皇室祖先ノ
遺シ玉ヘル訓誨ニシテ其子孫臣民
タル者ハ一ニ皆謹デ之ヲ遵守セザ
ルベカラザルヲ謂フナリ

之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ
施シテ悖ラス

謹デ案ズルニ是レ上文ニ記スル所

ノ修身ノ教ノ宜ク遵守スベキ所以
 ヲ示ス此教ヤ實ニ完全無缺ノ正訓
 ニシテ時ノ古今ニ因テ通ゼザル所
 アルコト無ク地ノ中外ニ因テ施ス
 ベカラザル所アルコト無ク萬世ニ
 涉リテ變易スベカラザルモノタル
 ヲ謂フナリ

朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ成其德

ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

謹デ案ズルニ拳々服膺トハ心ヲ盡
 シ意ヲ用井以テ念々之ヲ遵奉スル
 コトヲ忘レザルヲ謂ヒ成其德ヲ一
 ニストハ上下億兆皆同ク一定ノ德
 境ニ達シ區々錯雜セザルヲ謂フ是
 レ天皇陛下ガ躬親ヲ率先シテ吾人
 人民ト俱ニ斯ノ道ヲ遵守シテ德行

拳々トハ恭敬
 奉持ノ貌、服
 ハ猶着ノ如シ
 膺ハ胸ナリ恭
 敬奉持シテ之
 ヲ心胸ノ間ニ
 著クルノ意即
 ナ能ク遵守ス
 ルヲ言フナリ

ノ歸一ヲ得ンコトヲ期望シ玉フナ
 リ陛下既ニ率先シテ此期望ヲ爲ス
 吾人人民豈感憤興起シテ以テ聖旨
 ノ萬分一二協フコトヲ務メザルベ
 ケンヤ

勅諭修身經詳解終

明治廿四年十一月六日印刷
 明治廿四年十一月九日出版
 明治廿六年二月十五日三版

定價上等大和トチ十二錢
 上等普通トチ十錢

著者兼發行者 末松謙澄

東京市芝區芝公園第五號地

印刷者 曲田成

假事務所東京市芝區芝公園第五號九番乙

發行所 精華舍

東京市京橋區築地二丁目十七番地

印刷所 東京築地活版製造所



